

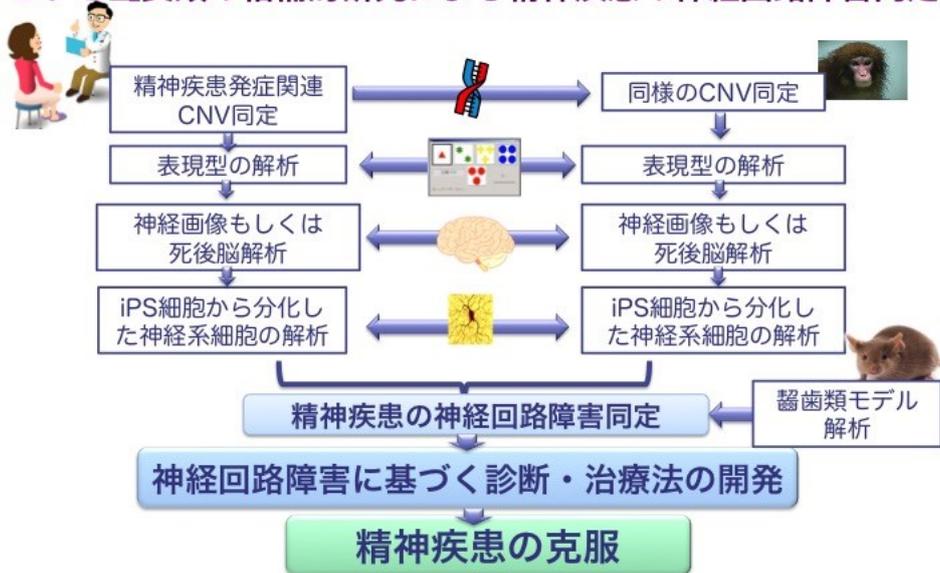
ニホンザル精神疾患モデルの探索： 疾患克服に向けた基礎と臨床の連携

尾崎 紀夫(名古屋大学)

精神疾患の病態は未だ不明な点が多く、診断・治療法の開発は遅れており、分子病態を反映したモデル動物の樹立が待望されている。精神疾患、とくに統合失調症、自閉スペクトラム症(ASD)の発症には遺伝要因が強く関与しているが、我々は統合失調症、ASD、双極性障害のゲノムコピー数変異(CNV)解析から、各9%、10%、5.6%の患者に病的意義をもつCNVを同定している。

CNVを起こしやすいゲノム構造, segmental duplicationの箇所にヒトと霊長類では類似性がある点に着目し、患者CNV解析の知見に基づき、精神疾患の霊長類モデルを見出すため、ニホンザル300頭を対象にCNV解析を実施し、精神疾患関連CNVを複数の個体で同定している。

ヒトと霊長類の相補的研究による精神疾患の神経回路障害同定



名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学・親と子どもの心療学分野教授。

1957年京都生まれ、1982年名大医学部卒。1990年米国立精神保健研究所 visiting fellow。藤田保衛大医学部講師・教授を務めた後、2003年より現職。日本うつ病学会理事長、日本神経精神薬理学会理事、日本生物学的精神医学会理事など。

主たる研究領域：ゲノム医学、疫学、時間生物学的、臨床精神薬理、神経科学、リエゾン精神医学など。